

前の方が5分前くらいに退出。呼ばれたのは時間通りだった。

試験官は2名、40代くらいの若い方（国交省キャリアとかの感じで、ハキハキしゃべる。この方が進行を主導されていた）、60前後くらいの方（大学教授か、官職上がりのお偉いさんの雰囲気、ぼつぼつと横から質問するくらいであまりしゃべらなかった）

入室し、受験番号を言うと、すぐさま経歴と体験論文の内容を10分程度で説明してくださいと言われた。ほぼ10分ぴったりで説明。

内容について2、3質問があった。特に内容についての疑いは無いようで、想定される範囲の質問で、無難に答えた。

その他は、「業務の中で他に生態系への配慮を行いましたか」とか、やや生物系の質問が多かった。

特に専門知識に関する質問をします、と言うような前置きはなく、話の流れの中で、業務の内容から離れて行った。

生物多様性の重要性は？、近自然工法とは？、などの質問があり、私は生物系が弱いのでやや苦戦しながらも、なんとか応答した。（質問はすべて若い方の方から）

試験官も私がやや生物系に弱いことを察したのか、「多自然型川づくりから他自然川づくりになりましたが、違いは何ですか？」と基本的なやさしい質問に切り替えてきた。（年配の方が質問）

やや詰まりながら答えたが、自分でも不完全だったと思ったので、明確に覚えていませんのでしっかり勉強しておきますと言うと、しっかり勉強しておいてくださいね、と言われた。（落ちるのだったらこの部分かと思い、このやり取りが発表までずっと気になっていた）

その次に、富栄養化のメカニズムは？、その対策は？、実際にそのような業務に携わったことがあるか？、と言う質問だったので、この部分は専門領域だったのでしっかり答えられた。

建設部門としての温暖化対策は？、再生可能エネルギーはどのようなものがありますか？、再生可能エネルギーの利用で注意すべきところ、たとえば風力発電での良い面・悪い面は？、と質問が続いた。

では法と倫理についての質問をしますと前置きがあり、お決まりの、3義務とは何ですか？、名称表示の場合の義務とはどういうことですか？、説明責任についての重要性は？、などの質問があった。

最後に、あなたが技術士として注意していきたいことは何ですか？との質問があった。

ではこれで終了しますとあっさり終了。

入室して退出まで約40分でした。